

りべらしおん

研究所ニュース

No.55

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail:fukuokajinkenken@happy.odn.ne.jp URL: <http://www.f-jinken.com/>



カンボジアの地雷原でアキラ氏(左端)といっしょに(右端が森山理事長)
(事務局撮影) 《カンボジア人権ツアー記事(4頁)参照》

大きな節目の年を迎えて

社団法人 福岡県人権研究所 理事長 森山 沾一

謹賀新年

皆様におかれましては行く先不透明な時代にありましても、健やかに新年を迎え、一年の計を立てたこととお慶び申し上げます。

今年の五月一日は全九州水平社が福岡東公園博多座で結成されて九〇周年の節目です。

また、来年は福岡部落史研究会が県民の皆様の期待を担って一九七四(昭和四九)年九月二八日に結成され四〇年になります。

(社)福岡県人権研究所はこれらの伝統を受け継ぎ、二〇〇四年に社団法人格をとり、「部落史・部落問題をはじめとする人権問題の研究を行い、機関誌や講座を通じて啓発・教育」を行ってきました。この間の大きな活動の柱は前近代・近代部落解放史実の発掘、研修や同和教育・啓発活動に資する資料の作成・提供、そしてアジアへの人権スタディツアーの実施です。会員の皆様と共に、地道ながら、これらの蓄積を行い各領域で多くの成果を挙げてきました。

世界の潮流は人権と平和

昨年十月、私は、山本作兵衛コレクション世界記憶遺産を日本で初めて登録したことに

伴い、「世界記憶遺産二〇周年フランス・オランダ研修団」を十一名で組みフランス(パリ)のユネスコ本部に訪問しました。二日間にわたり、細谷龍平官房長やジョイ・スプリング―世界記憶遺産事務局長、そして、パリ日本文化会館の竹内佐和子館長たちを敬訪問し、それぞれ一時間程度の懇談会が実現しました。その中で改めて確信したことは、国連・ユネスコの流れが人権と平和であり、日本がもつと世界的影響力をこれらの面で発揮するべきだということでした。ノーベル平和賞がEUの活動に決定したことも人権や平和が西欧的理念とはいえ大事にされているからでしょう。逆にいえばアジアの経済成長に対してリーマンショック(二〇〇八年九月一五日)以降のヨーロッパ・アメリカ経済が危機的で、戦争や人権抑圧の台頭があるからでもあります。

公益法人化に向け意識改革を

私たちにとって今年四月に認可が予定されている(社)福岡県人権研究所の公益法人化は、六月総会でこの数年の提案事項でした。それが、県教育委員会窓口での最終的事務折衝を経て実現するのです。公益法人となると、今以上に社会的信用が増します。また、基金などへの寄付金が税制上の優遇措置を受けることができます。公益法人化への道は決して平坦ではありませんでした。研究と同時に公益的な活動実績が行われ、組織的運営の在り

方が問われました。事務手続き訂正を何度も行いました。これらを経てようやく実現の運びとなってきました。

しかし、公益法人化すればさらなる財政基盤の確立、中長期的な見通しや組織規律の整合性などが問われます。執行理事会、理事の皆様の実質的動きが必要となりますし、事務局職員も強力なエンジンの推進力が問われます。また、会員の皆様にとっても、社会的信用のメリットと同時にメンバーシップの活動が必要となります。これらは、研究所の活性化・発展にとって良いことでしょう。希望の年になることを念じてご挨拶いたします。(もりやませんいち)

二〇一二年度 第一回 「人権啓発担当者のつどい」

十一月二七日(火)、(社)福岡県人権研究所啓発部会主催、福岡市教育委員会後援の「人権啓発担当者のつどい」を福岡市西市民センターで開催。古賀市人権センターの梅谷さん、小河さん、魚谷さんの三名から「市民が共に生き、共に支え合う『いのち輝くまちづくり』をめざして」と題した古賀市の取り組みを報告していただきました。参加者は県内市町村と福岡市の人権啓発担当者など約五〇名。以下、参加者の感想を一部紹介します。○大変参考になりました。自分の町での啓発

にも活用したい。行政総体で人権・同和教育に取り組んでいる事も参考にしたい。○他市のとりくみを聞くことが出来たのとても良かった。井の中の蛙にならないようにしなければ。

○人権センターのみなさんの熱意を感じた。○この仕事を通して自分自身が楽しく充実している意味が何なのか繋がってきた。

○「担当者」は男性がほとんどですね。是非、この部署に女性を増やしてほしいですね。

○地道で着実な取り組みが良く分かった。人権ワークショップも新鮮だった。

○意識調査の結果を細かく協議し、その結果どういう事をやっているかまで聞くことができ大変参考になった。



報告する古賀市人権センターの小河さん (事務局撮影)

第一七一回定例研究会(第二回ジェンダー部会)を開催 《参加者二十七名》

二〇一二年二月二日(土)

「旧柳町遊郭街跡・寛政五人衆の史跡をめぐるフィールドワーク」に参加して

服部 英雄

講師は立石武泰さんと園田久子さん。立石さんは「博多の街まるごと博物館」、電柱歴史案内二〇〇〇本プロジェクトの中心人物、園田さんは研究所理事、昨年 of 科研集会からお世話になっている。世話人はわたしのゼミにも出ていた田中美帆さん。

大浜遊郭(旧青線・名残をとどめる数少ない建物。元旅館であろう、かつて一階は飲食店、二階で売春が行われたよう)↓立石家(博多年行司、防空壕をみせていただく)↓絵図

にある御仕

置場遠望

(処刑執行を木に登って見る人がいた。その木は最近まで残っていた。刑場では腑分けも



メガホンを持って解説する講師の立石武泰さん(手前)(事務局撮影)

行われた)↓旧柳町遊郭跡。三吉屋跡および大浜小学校跡、入口が鍵の手、そこに門があつて嚴重に出入りを管理、むかしの門扉の鍵はいま新三浦が持っているらしい。鍵の手・突き当たり昭和四〇年代まで木造四階建ての建物が残っていた。新三浦までが範囲だったから旧柳町はとても広い。水炊きで知られる新三浦は明治の新柳町移転に因らず、現地に残った。福岡西方地震まで木造建物が残っていた。旧柳町堀の基礎も残っていたが最近壊され、わずかが近くの民家(越智家)にある。柳町遊女の眉のかき方が、博多の娘たちの流行になった。大浜は旧柳町移転後か。大浜の女性について、あがつた客の談話を拙著に紹介したことがある。柳町よりは格下とされていた。なお絵図にある「七つ仮屋」という地名(非人村だったとされる)について、立石さんは「ぼくたちは聞いたことはない」とのこと。はやくに消滅したようだ。

次に博

多年行司

遠藤家へ。

人物の影

になつて

しまつた

が、柱が

左右二本

くつつい

ている。



築400年の遠藤家と電柱両面にはられた歴史案内の表示 (著者撮影)

建物はもと二軒だった。このまえ左にあるのが、旧町名堅町の表示、電柱にも表示。博多も一部では旧町名表示に熱心。

↓選択寺遊女雪友の墓。ここも旧柳町も、いずれも昨年一度きている。一九歳で死んだ遊女雪友は寺に十両も納めていたという。いまなら一五〇万円ぐらいか。売れっ子だったらしい。墓碑銘に並んでいるもうひとりの戒名は母だという。母親は雪友以前に死んでいた。母は娘(雪友)を売った張本人なのか。それともはやくに死んでしまっていて、保護者を失った娘、のちの雪友が売られたのか。むろん後者でしょうね。

寛政松原五人衆合葬碑、その碑文の裏面に、文字を削った跡。何者かが削った。何という文字が削られたのか。松原水平社の下三文字が削られた。なぜ削ったのか、その人物の気持ち、推測はできる。差別への怒り・やりきれなさを碑の文字にぶつけてしまった。しかし闘いの

歴史を消す

わけにはい

かない。削

られたこと

への憤りが、

それ以上に

伝わった。

(九州大学

大学院教授)



雪友と母親のお墓(左から2番目)(事務局撮影)

カンボジア人権スタディツアー

〜はじめての地雷原視察〜

一二月二五日(火)〜二九日(土)の五日間、カンボジア地雷撤去キャンペーン主催の「カンボジア人権ツアー」に視察参加した。参加者は一九名、そのうち研究所からの参加は森山理事長、私を含めた十一名であった。

(一日目)一二月二五日、午後四時過ぎに福岡空港を出発、仁川で乗り継ぎ現地時間の午後十一時過ぎにカンボジアのシエムリアップ空港に到着。時差は二時間。

(二日目)水上生活者の様子を知らするためにトンレサップ湖を船で巡る。雨季には三メートル以上も水かさが増えるとのこと。この水が生活用水になっているという。

午後から、鬼一二三さんの日本語教室を訪問。日本語を学ぶカンボジア人生徒の授業風景を見学した。

人の鬼さんは一七年前にカンボジアに来てこの学校を始めたという。生徒総数一五〇名、鬼さんは生徒のニーズに合わせて



トンレサップ湖周辺の家屋

日本

早朝でも夜遅くても授業を行うという。「日本語を習得してよりよい職に就き充実した生活を送ってほしい。そのために自分出来ることを精一杯したい」と語っていた。



鬼一二三(ひふみ)さんの日本語学校で

その後、カンボジア地雷博物館(通称「アキラ地雷博物館」)を見学した。アキラ氏は、幼少期に両親をカンボジアの内戦で亡くし、少年兵として戦争に巻き込まれた生い立ちをもつ。ポルポト政権時代に自らの手で多くの地雷を埋めてきたという経験から、内戦終了後は、たった一人で地雷撤去活動をはじめ、これまでに三万個以上の地雷を撤去している。博物館にはアキラ氏が撤去した様々な形式の地雷が展示されていた。

(三日目)いよいよ、地雷原へ行く日がきた。午前七時にホテルを出発、バスで約二時間半かけて、タイとの国境地帯に向かう。到着すると迷彩服を着たアキラ氏が笑顔で私たちを迎えてくれた。しかし、地雷原はまだ先との

こと。道が狭くてバスが入らないためトラックで移動した。

現場でアキラ氏の説明を聞き、プロテクターとヘルメットを着用。(二頁参照)

三〇度を超える気温の中での装備は重くて暑苦しい。装着後、アキラ氏が地雷の撤去作業地点まで案内してくれた。金属探知機で丁寧に地面を探索するデマンダー(地雷撤去作業員)。アキラ氏は三〇人のデマンダーを率いて作業をしているが、そのうち六人は女性であった。命がけの作業である。

草やぶに被われた地面の下に直径一〇センチほどの対地雷が埋められていた。この地雷一つの製造コストは約五〇〇円だという。このような地雷がカンボジアにはまだ六〇〇万個も埋められているという。アキラ氏が埋められた地雷を見せてくれた。しばらくして、導火線を引き爆破準備に入った。私たちは少し離れた場所から爆破の様子を見守った。

小さな地雷である。爆破しても火花くらの音かと思っていたのは私だけだろうか。爆発の瞬間、大地が大きく揺れた。轟音とともにあたり一面が煙で真っ白になり土砂が舞い



アキラ氏が撤去した地雷(地雷博物館)

散った。大地を揺るがす爆音の轟きが私の身体に焼き付けられた様な気がした。沈黙が続いた。あまりのすさまじさに誰も声が出せなかった。すごいとか、怖いとか、びっくりりしたとか、そのような言葉で形容できるものではない。私たちは黙ったまま立ち上がり、静かにその場をあとにした。「地雷」まさに地面の雷だと思った。「百聞は一見にしかず」。何度も話には聞いていたがああ衝撃は体験しないとわからない。

そのあと、爆破の跡を見せてくれた。プラスチック製の地雷は溶けて跡形もなく、爆破あとにはぼっこりと小さな穴が開いているだけであった。「あんな大きな爆発音だったにもかかわらず、こんなに穴が小さいなんて」何人かがつぶやいた。人間が人間を傷つけるために知恵を働かせて作った悪魔の兵器、地雷。その地雷を命がけで撤去する人たち。私達はなんと悲しい歴史を歩んでいるのであろうか。

昼食の時間。
私は若い女性
デマンダーと
一緒に地面に
腰を掛けた。
彼女と話した
かったが英語
で話しかけて
もわからない
ようだ。会話



埋められた地雷を指し示すアキラ氏

ができないことが残念でならなかった。

それにしても代表のアキラ氏は驚くほど日本語が上手であった。前述した鬼一三さんから学んだという。また彼は、現在二五人の子の父親でもあるという。地雷被害にあった子どもたちを自分の子どもと一緒に育てているという。自分にできることを精一杯実践しているアキラ氏の生き様に感嘆した。

(四日目) アンコールトムを見学した後、義手・義足のリハビリセンターを訪問し、農作業中に地雷被害にあった男性から話を聞いた。

午後からアンコールワットを見学、夕方にはツアー最終目的地である「孤児院だるま愛育園」を訪問。バスが到着するやいなや、子どもたちが私達を歓迎してくれた。様々な理由で親を亡くしたり、親から捨てられた子ども達である。「だるま愛育園」は日本人僧侶の内田弘慈さんが二〇年前から運営する孤児院で、現在園長の内田さんが入院しているため、カンボジア人のお連れ合いさんが園を切り盛りしていた。彼女は両親ときょうだいをポルポト政権時に殺されたと話していた。「私も孤児だったから子ども達の気持ちがよく分かるんです」と彼女は流暢な日本語で語った。

子どもたちは四五名。カンボジア政府からは何らの助成もなく、ほとんどを日本からの有志の寄付でまかなっているという。

子ども達による歓迎の歌や踊り、最後は一緒に「炭坑節」を踊り楽しいひとときを過ご

した。小さな瞳に見送られ孤児院をあとにする時、子ども達はずつと手を振ってくれた。

(五日目) 深夜零時過ぎにシエムリアップ空港から帰国の途につく。午前十一時過ぎに福岡空港に到着するとカンボジア地雷撤去キャンプの古川さんが出迎えてくれた。

旅の終わりにSさんは私に、「ずつと迷ってたけど、思い切つて参加して本当によかった」と語り、Fさんは「息子が義足装具師をしている。息子の仕事を心から応援したい」と語ってくれた。

私事だが、いとこが徴兵時、韓国と北朝鮮の国境付近で伐採作業中、地雷被害に遭つて亡くなっている。二〇歳だった。世界では今でも約七〇〇万個の地雷が埋められているという。この現実をどう受け止めていくべきなのか。微力だが私も今回の体験を多くの人に伝えていきたいと思った。

最後に、今回のツアーを企画・催行してくれたカンボジア地雷撤去キャンペーンの大谷さん、古川さん、現地のコイさん、柴田さん、そしてアキラさん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

事務局 金美子(柳井美枝)

※今回ガイドをしてくれた大谷賢二さんは『リベラシオン』掲載「地雷被害者の差別をなくし就業を支援するために」の著者です。

(写真はいずれも事務局撮影)

北九州市ふれあいフェスタ 二〇一二

一月二日(日)、北九州市主催の「ふれあいフェスタ二〇一二」が、西日本総合展示場で開催されました。

(社)福岡県人権研究所からは、昨年ユネスコの世界記憶遺産に登録された山本作兵衛さんの炭坑画(複製)一八枚を展示。来場者は、間近で鑑賞できる作兵衛さんの絵画に見入っていました。

フェスタのブースには研究所以外にも「N



山本作兵衛さんの絵画に見入る来場者

P.O法人もやい」や「強制連行を考える会北九州」、「(公財)福岡県人権啓発情報センター」、「北九州ユニセフ協会」など、三八団体が出展。ステージでは聴覚障害の息子をもつ歌手の今井絵理子さんの講演とミニライブが行われ、会場は多くの市民で賑わいました。

抱樸館(ほうぼくかん)福岡 第四回きずな祭

二〇一〇年の開所から三年を迎えるホームレス自立支援施設「抱樸館福岡」の第四回「きずな祭」が二月一日(土)に行われました。天気はあいにくの雨でしたが、外では抱樸館卒業メンバーや北九州ホームレス支援機



くまもん体操で会場を盛り上げる職員の皆さん



北九州開所に向けての決意を語る奥田知志さん
(北九州ホームレス支援機構理事長)

構による、フランクフルト、焼きそば、被災地の牡蠣を使った蒸し牡蠣などの販売が行われました。屋内ステージでは、地元グループのフラダンス、日舞、九大落語研究会の落語、入居者による合唱や、抱樸館卒業生の活動紹介(散髪ボランティア等)、また、職員によるくまもん体操やグリーンコープ組合員によるコンサート、地元津屋支部でお馴染みのバンド「おやじーズ」のライブ等が行われました。

閉会式での奥田知志さんのお話では、二〇一三年九月に三番目の「抱樸館」を北九州市に開所することを目指し、たくさんの反対運動にあいながらも、何度も住民説明会を開いて、根気よく住民の理解を求めていく決意が語られました。

(写真はいずれも事務局撮影)

会員の声

○『解放教育』をお譲り下さい

板山 勝樹

新年、明けまして、おめでとうございます。微力ではありますが、人権教育研究の前進に貢献する一年にしたいと考えております。

さて、会員の皆様にお願ひがあります。周知の通り、人権教育・「同和」教育の理論・実践書として重要な情報を提供していた雑誌『解放教育』が休刊となりました。毎月、愛読していた私は非常に残念に思っております。全刊をそろえたいと考えています。そこで、もしも次に示す『解放教育』をお持ちの方がいらっしゃるならば、お譲り頂けませんでしょうか。

○一九七〇年代発刊の『解放教育』
○一九八〇～一九八六年発刊の『解放教育』
(ただし、一九八四年発刊のものは既に入手しております)

現在、私は一九五〇～七〇年代の「同和」教育論の歴史的研究を進めています。つまり、「理念の相」の分析・考察を行っております。

皆さんもご経験があるかと思いますが、理念と実践はしばしばズレることがあります。よって、「理念の相」のみではなく、「実践の相」からの研究を進める必要があると考えて、その研究を進める上での重要な史料が雑誌『解放教育』であろうと考えております。ご協力方、何卒、よろしく願ひいたします。

(公立大学法人名桜大学教員)

○全国夜間中学校研究大会に参加して

松本 京子

第五八回全国夜間中学校研究大会に出席してきました。今年の開催地は関東地区で、会場は東京都葛飾区のウイメンズパル、開催期間は十一月二九日(木)～十一月三〇日(金)でした。

大会主題は、「夜間中学校の実態から教育の課題を明らかにし、義務教育未修了者の人権としての学ぶ権利を保障しよう」です。公立夜間中学校の関係者や、自主夜間中学校の関係者が全国から終結し大会初日の参加者は一八〇人でした。

記念講演は元松本少年刑務所内松本市立旭町中学校桐分校教官の角谷敏夫氏です。

「刑務所の中の中学校桐分校」その学びと感動」として受刑者兼中学生の指導について

話をされました。生徒たちは一年間一日七時間の授業を受け、三時間の自習をして中学校卒業の認定を受けているそうです。大人になった人々にとって、このようにして一年間学ぶことは大変なもので、そこにはさまざまなドラマがあったと九〇分間熱のこもった話をされました。

午後からは、全国の夜間中学校の活動報告や計画が語られ、生徒の体験発表、領域別、教科別分科会など恒例のプログラム、それに今年は夜間の学校見学・授業参観が二日にわたって実施されました。それから、「義務教育等学習機会充実に向けた『超党派参加・国会院内の集い』(二〇一二年八月)」を受けて、関係省庁、都道府県／区市教育委員会宛の「全国夜間中学校研究会要望書」が決議されました。

なんとと言ってもこの研究会の楽しみは多様な生徒さん達の体験発表です。在日コリアンの高齢者、残留孤児の家族、外国人労働者、引きこもりだった人など、さまざまな人たちの夜間中学校での学びの楽しさ、人との交わりの不思議さを語ってくれます。

今年の語録から、

「人は一人では変わらない、人の中で変わる。夜間中学校で変わる」「一つ学べば一つの世界が、ふたつ学べば、ふたつの世界がひろがる」がありました。

(穴生中学校「夜間学級」スタッフ)

○一月八日(火) 部落解放同盟福岡県連合会の新春旗開
きがソラリア西鉄ホテルで開催され、森山沾一理事長、
堀内忠副理事長が出席しました。
○一月一二日(土) 福岡サンパレスで行われた部落解放
同盟福岡市協議会の新春旗開きに、森山沾一理事長と松
尾祐作理事兼所長が出席しました。

お知らせ

○史実と授業・啓発の結合をめざして

▽テーマ 「教科書から土農工商が消えた？」

▽講師 阿南重幸さん(長崎人権研究所)

▽パネラー 長岡俊光さん(北九州市立中学校教諭)

加来康宜さん(築上町人権・「同和」教育研究会
事務局長)

事務局長)

▽日時 二月九日(土) 一四時～一七時三〇分

▽会場 AIM三階(JR小倉駅北口前)

▽参加費 一、二〇〇円(会員一〇〇〇円)

○第一七二回定例研究会

&人権啓発担当者のつどい

▽テーマ 「人権の根っこを見据えて」

▽講師 稲積謙次郎さん(北九州市人権施策審議会会長)

▽日時 二月一五日(金) 一八時三〇分～二〇時三〇分

▽会場 富士見ホール(小倉南区富士見二一八一)

▽共催 北九州人権フォーラム21

▽参加費 五〇〇円

研/究/所/日/誌/か/ら (2012.11.30～2013.01.20)

- 12/02(日) ふれあいフェスタ 2012(北九州市)
- 12/07(金) 編集委員会
- 12/09(日) (カンボジア人権スタディツアー事前学習会)
- 12/13(木) 事務局会 松本治一郎・井元麟之研究会
- 12/16(日) 全九州水平社創立90周年誌編集委員会
- 12/18(火) 啓発部会(田川) 『リベラシオン』第148号発行
- 12/20(木) 事務局員ヒアリング 事務局会
- 12/22(土) 第171回定例研究会(企画;ジェンダー部会/フィールドワーク)
- 12/25(火)～29(土) カンボジア人権スタディツアー(主催/カンボジア地雷撤去キャンペーン)
- 12/28(金)～2013(H25)01/03(木) 年末年始閉局
- 2013(H25)年
- 01/04(金) 仕事始め
- 01/07(月) 事務局会
- 01/08(火) 部落解放同盟福岡県連合会新春旗開き
- 01/09(水) 防災本部班・地区隊会議(吉塚合同庁舎) 部会長会
- 01/10(木) 運営委員会
- 01/12(土) 部落解放同盟福岡市協議会新春旗開き
- 01/14(月) 成人の日
- 01/16(水) 「史実と授業・啓発の結合をめざして」実施地(北九州市;2/9) 打合せ
- 01/18(金) 吉塚合同庁舎消防訓練 松本治一郎・井元麟之研究会
- 01/20(日) 執行理事会

(※住民意識調査等の受託事業、公益社団法人申請に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談等の業務については省略しています。)